

☆☆☆毎月8日は畜舎一斉消毒の日☆☆☆

哺乳子牛の寒冷対策

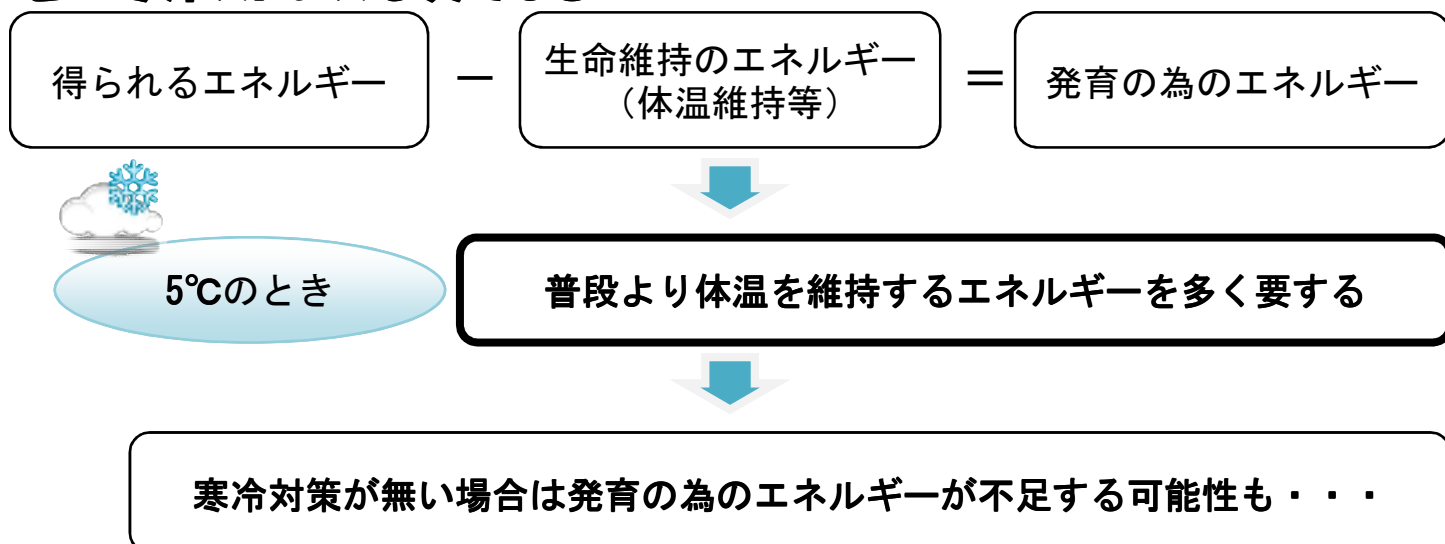
2011.11.11-12 市場研修会 おおいた肉用牛振興協議会

1 特に哺乳子牛(0~4ヶ月)は寒冷ストレスを受けやすい

哺乳子牛は、育成牛や肥育牛に比べて寒さに弱く、適温域は13℃~25℃、生産環境限界が5℃とされています(下記表参照)。ただし、この数値は風のない状態での指標なので注意が必要です。例えば、体が濡れているところへ風があたると、温度計の数値以上に体感温度が下がり、大きな寒冷ストレスを受ける場合もあります。

ステージ	適温域	生産環境限界	
		低温	高温
哺乳子牛 (0~4ヶ月)	13~25℃	5℃	30~32℃
育成牛	4~20℃	-10℃	32℃
肥育牛	10~15℃	-10℃	30℃

2. 寒冷ストレスを受けると・・・



* 冬季の配合飼料給与量

冬場は体温維持のためカロリーが不足します。濃厚飼料を増やしたり、高カロリーの飼料給与をして、正常発育を心がけましょう。

3. 子牛はなぜ寒さに弱いのか……………

- ・体重当たりの表面積が大きく熱を奪われやすい。
- ・体脂肪が非常に少なく筋肉質。
- ・まだ第1胃の発達が未熟なので、発酵熱の発生が少ない。

4. 子牛から体温が奪われるパターン

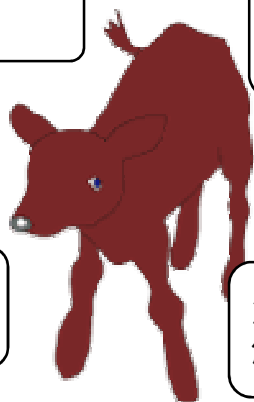
冷たいものに近づくと、体温が奪われる。

体が濡れていると、水の蒸発と一緒に体温が奪われる。

すきま風で、体温が奪われる。

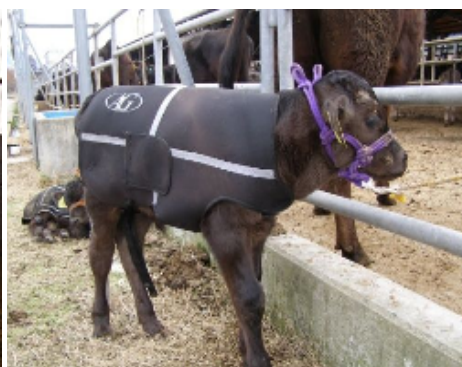
飲水が冷たいと、内部から体温を奪われる

冷たい床材(コンクリート)や、濡れた敷料に触れて、体温が奪われる。



5. 効果的な防寒対策は…

- ・すきま風を防ぐ (ベニヤ板、カーテンを利用)
- ・保温箱の設置 (簡易なカーフハッチなど)
- ・表皮体温を維持する (カーフジャケットの活用)
- ・保温機の活用 (カーボンヒーター等)
- ・飲水の管理 (お湯、温水ヒーターの利用)
- ・敷料を厚めにしく



*** 牛舎換気を忘れずに！**

密閉するとアンモニアガス、ほこり等で呼吸器病の原因となります。必ず定期的な換気をおこないましょう。

※ご不明な点は、最寄りの振興局にお尋ね下さい。